

午後 試験

問 1

問 1 では、システムの企画段階において、開発目的に沿ったシステム化の効果を測定する指標が適切に設定されていることを監査する場合のポイントについて出題した。

設問 1 では、“省力化効果で開発予算を回収できない”など、記載事項の問題点だけを記述した解答が多く見られた。経営情報システムの開発目的から考えて、省力化効果だけではなく、“経営判断に役立てる”という定性的な評価や、その結果得られる収益の向上といった効果の記載が必要だという点を解答してほしかった。

設問 3 では、正答率は高かったが、監査ポイントに対応していない解答や、監査手続ではなく監査ポイントだけを記述した解答も見られた。“承認印の確認”だけでは不十分であり、経営企画室長が内容を十分に理解して承認したことを確認する手続として、インタビューやレビュー記録の閲覧といった具体的な監査手続を解答してほしかった。

問 2

問 2 では、倉庫業務の受託業務において、委託者（顧客）に情報を提供するサービスを行うシステムについて出題した。

設問 2 では、インタフェース処理の遅れやトラブルについて記述した解答が散見された。正常な状況であってもシステム間のデータの整合性については、調整が必要である理由を解答してほしかった。

設問 3 では、操作研修の実施や操作マニュアルの更新など、本社に役割・責任のある事項についての解答が多かった。倉庫業務の現状から、本社在庫システムを利用した場合の懸念事項を考えて解答してほしかった。

設問 4 では、設問 3 で解答すべき事項を解答するものが散見された。倉庫システムと本社在庫システムとの連携に気づけば解答できる問題である。

問 3

問 3 では、リッチクライアント技術を採用した新システムの導入に伴って新たに発生するリスクの知識、リスクに対応したコントロールの識別能力、及び関連する監査手続について出題した。

設問 1 では、顧客サービス部が実施した確認作業の範囲に漏れがないことを検証する監査手続についての解答を求めていたが、顧客サービス部が実施した確認作業の範囲内での網羅性の検証についての解答が多かった。また、監査証跡を明示していない解答も散見された。

設問 2 では、システム監査人が調べたプログラム上の機能についての解答を求めたが、監査手続を記述した解答が多く、正答率が低かった。

設問 3 では、“顧客サービス部が行った作業に原因がある”という前提があるにもかかわらず、人事管理システムにおける更新の不備を解答したものが散見された。

問 4

問 4 では、ポイント管理システムの特性を踏まえたリスク及びコントロール目標を理解していることを前提として、コントロール及び監査手続について出題した。

設問 1 は、“正当性”と“権限”との関係、及び“準拠性”と“設定ルール”との関係を理解していれば解答できる。しかし、a と b とを逆に記述した解答が散見された。

設問 2 の では、インタフェースに関する監査手続を理解していない解答が多く、正答率が低かった。

設問 3 では、自動化されたコントロールの運用状況のテストについて、十分に理解していない解答が多かった。

設問 4 は、受信データについて、どのようなコントロールが組み込まれるべきなのかを理解していれば、解答できる。データとファイルの突合というチェックについて、正しくかつ具体的に記述してほしかった。